信長探訪倶楽部　１２月行事　本能寺の変　光秀、信長を襲う

さていよいよ信長探訪シリーズも最終段階、本能寺の変に突入です。武田攻めで勝頼を自刃に追いこみ、武田領の仕置きを終えて安土に戻った信長は、家康を招待、接待します。そこへ中国攻めで毛利側の高松城を水攻めしていた秀吉より、毛利の救援軍の動きに備えて信長の出陣を要請してきます。このため接待役の光秀を自領に戻し、秀吉の救援に出向くよう指示します。

信長は、このとき本能寺で公家、商人や信忠とともに時間を過ごし、夜遅く床に就きました。一方光秀はこれからの生末を考えたとき、信長、信忠父子を抹殺するのは今しかないと考え、中国に出向かず京都に向かうことになります。「時は今、天が下しる、五月かな」、「是非もなし」です。

光秀が信長に反逆にいたるには、いくつもの理由が挙げられています。あなたの考えはどれでしょうか。今回は、京の地のためバスで出かけました。本能寺と紅葉の両方を楽しむことが出来ましたし、本能寺から清水寺までの間の祇園では京料理の昼食をいただいたのも良い思い出となりました。

１２日２日、信長探訪倶楽部は、本能寺跡を訪ねました。京都市堀川高校の傍にその碑はありました。

本能寺跡から歩いて20分のところに、信孝要請を受けて秀吉が建立した現在の本能寺があります。

本能寺本殿前を歩く3人。
元の本能寺は東西約100m、南北約200mの規模を有していたと伝えられ、現本能寺よりかなり大きい。

本能寺裏に織田信長公御廟所が建立されている。

本能寺から八坂神社を過ぎて、ねねの小道を歩くと着物姿の女性が目立つようになってきた。

清水坂に出て清水寺に向かう。着物姿の女性がさらに多くなってきた。
でも日本語は聞こえてこない・・・

清水の舞台と紅葉

清水の舞台上の４人

紅葉の間から清水寺の三重塔を見て帰路についた。